

授業科目名： 保健体育科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：杉山正明・ 渋谷 聡・天利 公一 担当形態 オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）	高等学校保健体育科教諭としての経験を活かして、中学校および高等学校保健体育科教諭としての資質・能力を高めるとともに学習指導案の作成について指導する。		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志をもつこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自立的な課題探究能力を身に付けていること。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保健体育科教育の意義、目標、学習指導要領及び解説の内容の示し方、体育の授業づくりの原理・原則、学習評価の在り方を理解し、「指導と評価の一体化」に基づいた単元を見通した授業計画の立案と学習指導案の作成などの保健体育の授業の実践的な能力を身に付けることができるようにする。</p> <p>また、教師は「反省的实践家」ともいわれており、その視点から「学び続ける教師」の必要性を理解できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>印刷教材を活用したレポート作成と面接授業を行う。体育の「指導と評価の計画」を作成したうえで、面接授業では、講義として教師に求められる資質・能力および良い授業に求められる保健体育教師の力量形成、体育における授業づくりの原理・原則や「指導と評価の一体化」についての学習を行う。また、模擬授業では、体育実技について行い、学習指導要領及び解説に示された「体育の見方・考え方」の捉え方や学習内容の特定の考え方及び「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の在り方やタブレットなどのICT機器の効果的な活用についての理解を深めるとともに、学習指導案作成の力量形成を目指す。この際、模擬授業においては、それぞれの授業における学習内容や効果的な指導の在り方について全員で意見交換をする。（アクティブラーニングの手法を用いる）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保健体育科教育の意義、目標および保健体育教師の資質と能力</p> <p>第2回：学習指導要領及び解説に示された「体育の見方・考え方」と学習内容・学習方法</p> <p>第3回：体育における「主体的・対話的で深い学び」の捉え方とその具体</p> <p>第4回：良い体育授業の条件から捉えた体育授業づくりの原理・原則</p> <p>第5回：体育授業における教材・教具づくり</p> <p>第6回：体育の学習評価とそのタイミング</p>			

第7回：体育の授業における効果的な ICT 機器の活用方法について
第8回：模擬授業Ⅰ（球技：ネット型）に向けて指導案作成
第9回：模擬授業Ⅰ（球技：ネット型）実践
第10回：模擬授業Ⅱ（球技：ゴール型）に向けて指導案作成
第11回：模擬授業Ⅱ（球技：ゴール型）実践
第12回：模擬授業Ⅲ（体づくり運動）に向けて指導案作成
第13回：模擬授業Ⅲ（体づくり運動）実践
第14回：模擬授業省察、「指導と評価の計画」とその実践についての振り返り
第15回：自己の教育課題の発見と社会の変化に対応した教育の在り方
定期試験

スクーリングでの学修内容

教師の授業力の構成要素に基づいた保健体育教師の力量形成の必要性、および体育の授業づくりのポイントを理解した上で、「指導と評価の一体化」に基づいた1時間の学習の流れを作成し、スクーリングで実施する模擬授業のための教材研究および学習指導案の作成を行う。模擬授業は、体育では、「中学校、高等学校 体づくり運動」もしくは「中学校、高等学校 球技（ネット型・バレーボール）」、「中学校、高等学校 球技（ゴール型・バスケットボール）」のいずれか1種目を行い、実施後に全体で授業改善のポイントについて協議する。（スクーリングではすべての内容を包括的に取り上げる。）

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年告示』東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 平成30年告示』東山書房

参考文献

- (1) 杉山重利他（編著）『めざそう 保健体育教師』朝日出版社 2010年
ISBNコード 9784255005164
- (2) 高橋健夫他（編著）『新版 体育科教育学入門』大修館書店 2010年
ISBNコード 9784469267013

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。